

赤ずきんちゃん

ROTKAPPCHEN

グリム兄弟 Bruder Grimm

青空文庫

むかし、むかし、あるところに、ちいちゃいかわいい女の子が
ありました。それはたれだつて、ちよいとみただけで、かわいく
なるこの子でしたが、でも、たれよりもかれよりも、この子のお
ばあさんほど、この子をかawaiiがつているものはなく、この子を
みると、なにもかもやりたくてやりたくて、いったいなにをやつ
ていいのかわからなくなるくらいでした。それで、あるとき、お
ばあさんは、赤いびろうどで、この子にずきんをこしらえてやり
ました。すると、それがまたこの子によく似あうので、もうほか
のものは、なんにもかぶらないと、きめてしまいました。そこで、
この子は、赤ずきんちゃん、赤ずきんちゃん、とばかり、よばれ

るようになりました。

ある日、おかあさんは、この子をよんでいいました。

「さあ、ちよいといらっしやい、赤ずきんちゃん、ここにお菓子
がひとつと、ぶどう酒しゅがひとつびんあります。これを赤ずきんちゃん、おばあさんのところへもっていらっしやい。おばあさんは、
ご病気でよわっていらっしやるが、これをあげると、きつと元気
になるでしょう。それでは、あつくならないうちにおでかけなさい。
それから、そとへでたら気をつけて、おぎようぎよくしてね、
やたらに、しらない横道へかけだしていたりなんかしないので
すよ。そんなことをして、ころびでもしたら、せつかくのびんは
こわれるし、おばあさんにあげるものがなくなるからね。それか

ら、おばあさんのおへやにはいったら、まず、おはようござい
ます、をいうのをわすれずにね。はいると、いきなり、おへやの中
をきよろきよろみまわしたりなんかしないでね。」

「そんなこと、あたし、ちゃんとよくしてみせてよ。」と、赤ず
きんちゃんは、おかあさんにそういつて、指きりしました。

ところで、おばあさんのおうちは、村から半道はなれた森の中
にありました。赤ずきんちゃんが森にはいりかけますと、おおか
みがひよつこりでてきました。でも、赤ずきんちゃんは、おおか
みつて、どんなわるいけどものだからしりませんでしたから、べつ
だん、こわいともおもいませんでした。

「赤ずきんちゃん、こんちは。」と、おおかみはいいました。

「ありがとう、おおかみちゃん。」

「たいそうはやくから、どちらへ。」

「おばあちゃんのところへいくのよ。」

「前かけの下にもってるものは、なあに。」

「お菓子に、ぶどう酒。おばあさん、ご病気でよわっているでしょう。それでおみまいにもってつてあげようとおもって、きのう、おうちで焼いたの。これでおばあさん、しつかりなさるわ。」

「おばあさんのおうちはどこさ、赤ずきんちゃん。」

「これからまた、八、九町ちようもあるいてね、森のおくのおくで、大きなかしの木が、三ぼん立っている下のおうちよ。おうちのまわりいけがきに、くるみの生垣いけがきがあるから、すぐわかるわ。」

赤ずきんちゃんは、こうおしえました。

おおかみは、心の中でかんがえていました。

「わかい、やわらかそうな小むすめ、こいつはあぶらがのつて、おいしそうだ。ばあさまよりは、ずっとあじがよかろう。ついでにりょうほういっしょに、ぱっくりやるくふうがかんじんだ。」

そこで、おおかみは、しばらくのあいだ、赤ずきんちゃんとならんであるきながら、道みちこう話しました。

「赤ずきんちゃん、まあ、そこらじゅうきれいに咲いている花をごらん。なんだって、ほうぼうながめてみないんだろうな。ほら、小鳥が、あんなにいい声で歌をうたっているのに、赤ずきんちゃん、なんだかまるできないくないようだなあ。学校へいくときの

ように、むやみと、せつせこ、せつせこと、あるいているんだなあ。そとは、森の中がこんなにあかるくてたのしいのに。」

そういわれて、赤ずきんちゃんは、あおむいてみました。すると、お日さまの光が、木と木の茂った中からもれて、これが、そこでもここでも、たのしそうにダンスしていて、どの木にもどの木にも、きれいな花がいっぱい咲いているのが、目にはいりました。そこで、

「あたし、おばあさまに、げんきでいきおいのいいお花をさがして、花たばをこしらえて、もってつてあげようや。するとおばあさん、きつとおよろこびになるわ。まだ朝はやいから、だいじょうぶ、時間までに行かれるでしょう。」

と、こうおもつて、ついと横道から、その中へかけだしてはいつて、森の中のいろいろの花をさがしました。そうして、ひとつ花をつむと、その先に、もつときれいながあるんじゃないか、という気がして、そのほうへかけて行きました。そうして、だんだん森のおくへおくへと、さそわれて行きました。

ところが、このあいだに、すきをねらつて、おおかみは、すたこらすたこら、おばあさんのおうちへかけていきました。そして、とんとん、戸をたたきました。

「おや、どなた。」

「赤ずきんちゃんよ。お菓子とぶどう酒を、おみまいにもつて来たのよ。あけてちょうだい。」

「とつ手をおしておくれ。おばあさんはご病気でよわっていて、おきられないのだよ。」

おおかみは、とつ手をおしました。戸は、ぼんとあきました。おおかみはすぐとはいって、なんにもいわずに、いきなりおばあさんのねているところへ行つて、あんぐりひと口に、おばあさんをのみこみました。それから、おばあさんの着物を着て、おばあさんのずきんをかぶつて、おばあさんのお床とこにごろりと寝て、カーテンを引いておきました。

赤ずきんちゃんは、でも、お花をあつめるのにむちゆうで、森じゆうかけまわっていました。そうして、もうあつめるだけあつ

めて、このうえ持ちきれないほどになったとき、おばあさんのことをおもいだして、またいつもの道にもどりました。おばあさんのうちへ来てみると、戸があいたままになっていたので、へんだとおもいながら、中へはいりました。すると、なにかが、いつもとかわってみえたので、

「へんだわ、どうしたのでしょうか。きようはなんだか胸がわくわくして、きみのわるいこと。おばあさんのところへくれば、いつだったのしいのに。」と、おもいながら、大きな声で、

「おはようございます。」

と、よんでみました。でも、おへんじはありませんでした。

そこで、お床とこのところへ行って、カーテンをあけてみました。

すると、そこにおばあさんは、横になっていましたが、ずきんをすつぽり目までさげて、なんだかいつもとようすがかわっていました。

「あら、おばあさん、なんて大きなお耳。」

「おまえの声が、よくきこえるようにさ。」

「あら、おばあさん、なんて大きなおめめ。」

「おまえのいるのが、よくみえるようにさ。」

「あら、おばあさん、なんて大きなおてて。」

「おまえが、よくつかめるようにさ。」

「でも、おばあさん、まあ、なんてきみのわるい大きなお口だ」と。

「おまえをたべるにいいようにさ。」

こういうがはやいか、おおかみは、いきなり寢床からとびだして、かわいそうに、赤ずきんちゃんを、ただひと口に、あんぐりやっつけてしまいました。

これで、したたかおなかをふくらませると、おおかみはまた寢床にもぐって、ながながと寝そべって休みました。やがて、ものすごい音を立てて、いびきをかきだしました。

ちようどそのとき、かりうどがおもてを通りかかって、はてなと思つて立ちどまりました。

「ばあさんが、すごいいびきで寝ているが、へんだな。どれ、な

にかかわったことがあるんじゃないか、みてやらさばなるまい。」

そこで、中へはいつてみて、寝床のところへ行つてみますと、おおかみが横になっていました。

「ちきしよう、このばちあたりめが、とうとうみつけたぞ。ながいあいだ、きさまをさがしていたんだ。」

そこで、かりうどは、すぐと鉄砲をむけました。とたんに、ふと、ことによると、おおかみのやつ、おばあさんをそのままのんでいるのかもしれないし、まだなかで、たすかっているのかもしれないぞ、とおもいつきました。そこで鉄砲をうつことはやめにして、そのかわり、はさみをだして、ねむっているおおかみのおなかを、じよきじよき切りはじめました。

ふたはさみいれると、もう赤いずきんがちらと見えました。もうふたはさみいれると、女の子がとびだしてきて、

「まあ、あたし、どんなにびつくりしたでしょう。おおかみのおなかの中の、それはくらいいったらなかつたわ。」と、いいました。やがて、おばあさんも、まだ生きていて、はいだしてきました。もう、よわって虫の息になっていました。赤ずきんちゃんは、でも、さつそく、大きなごろた石を、えんやらえんやらはこんできて、おおかみのおなかのなかにいっぱい、つめました。やがて目がさめて、おおかみがとびだそうとしますと、石のおもみでへたばりました。

さあ、三人は大よろこびです。かりうどは、おおかみの毛皮を

はいで、うちへもってかえりました。おばあさんは、赤ずきんちゃんのもつてきたお菓子をたべて、ぶどう酒をのみました。それで、すっかりげんきをとりかえました。でも、赤ずきんちゃん
は、（もうもう、二どと、森の中で横道にはいって、かけまわったりなんかやめましょう。おかあさんがいけないと、おっしやつたのですものね。）と、かんがえました。

青空文庫情報

底本：「世界おとぎ文庫（グリム篇）森の小人」小峰書店

1949（昭和24）年2月20日初版発行

1949（昭和24）年12月30日4版発行

※原題の「[ROTKA:PPCHEN]」は、ファイル冒頭ではアクセント符号を略し、「ROTKAPPCHEN」としました。

※「旧字、旧仮名で書かれた作品を、現代表記にあらためる際の作業指針」に基づいて、底本の表記をあらためました。

入力：大久保ゆう

校正：浅原庸子

2004年4月29日作成

2005年11月19日修正

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<http://www.w.aozora.gr.jp/>) で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

赤ずきんちゃん

ROTKAPPCHEN

2020年 7月13日 初版

奥付

発行 青空文庫
著者 グリム兄弟 Bruder Grimm
URL <http://www.aozora.gr.jp/>
E-Mail info@aozora.gr.jp
作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU
URL <http://aozora.xisang.top/>
BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
<http://tokimi.sylphid.jp/>